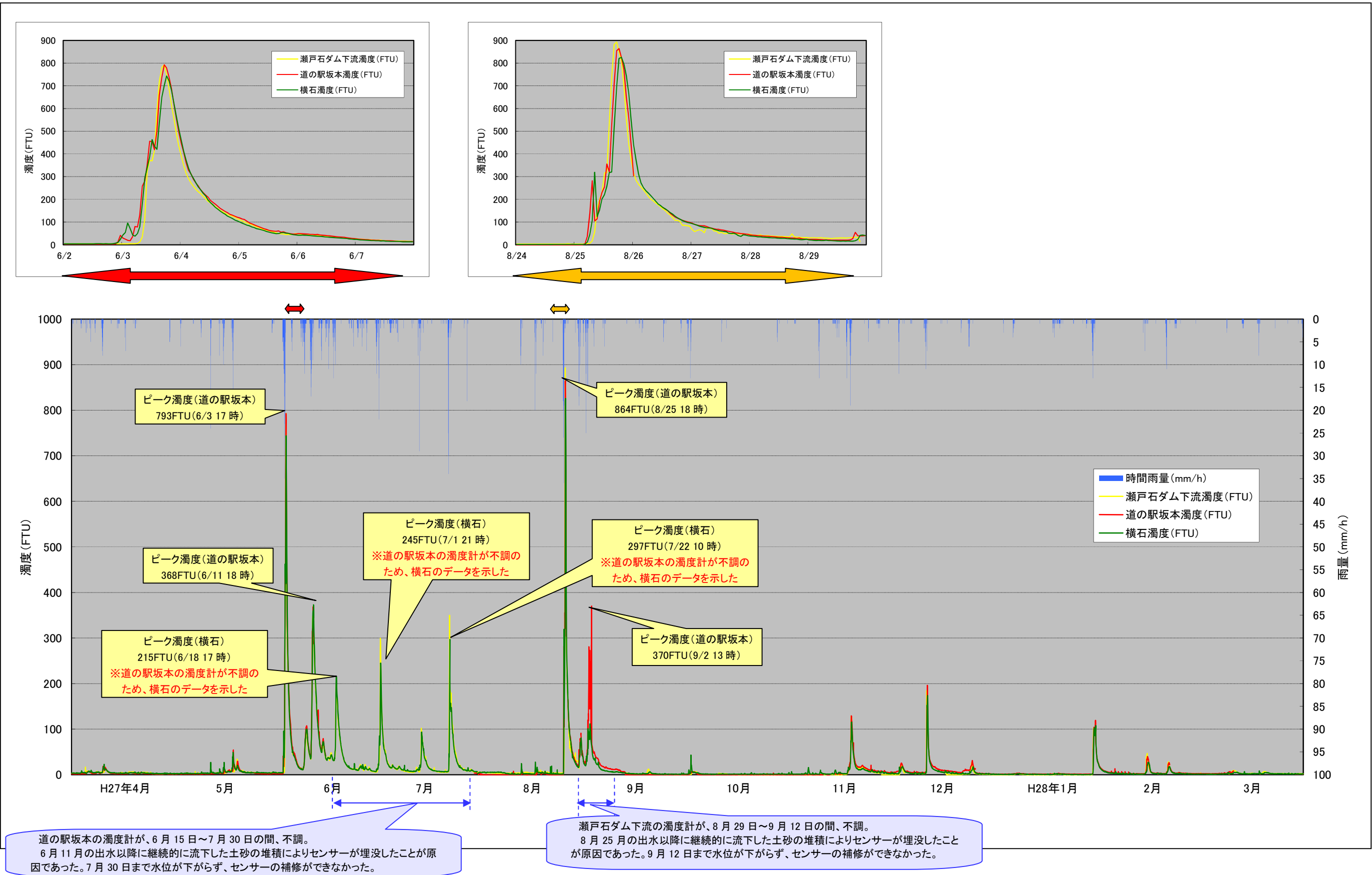


7) 水質（常時観測：出水時）

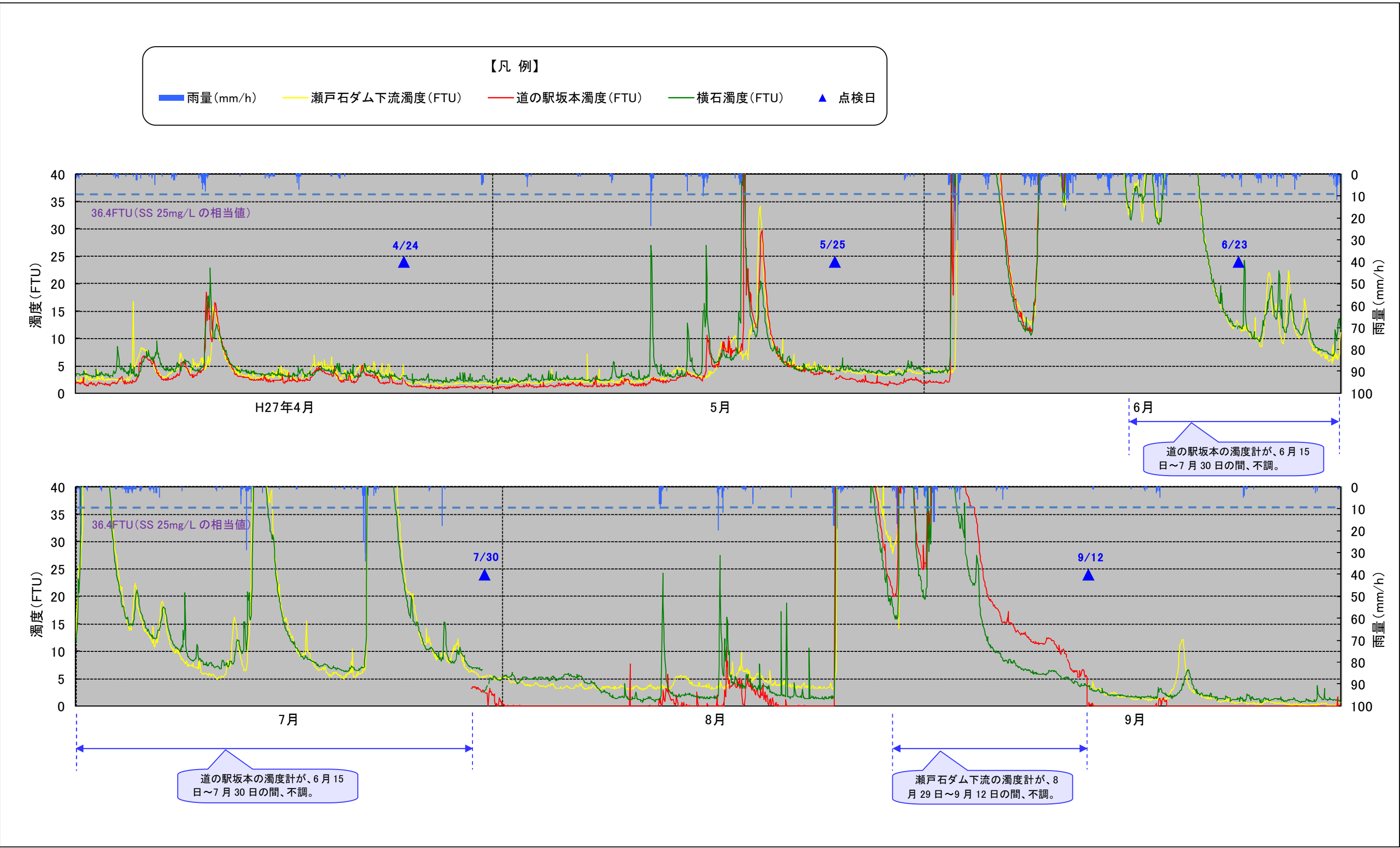
【参考資料 I -200参照】

評価項目	視点	平成 27 年度の調査結果概要	評価概要
平成 27 年度の出水時濁度の状況	出水時の濁度の時間変化(自動観測)	・ 出水時の瀬戸石ダム下流（荒瀬ダムへの流入水）と道の駅坂本（荒瀬ダム直下流）と横石の濁度の関係に着目し整理した結果、 <u>3 地点ともに同様の挙動を示している</u> 。また、濁度のピーク出現時刻は、下流地点ほど遅く、ピーク値は上流地点ほど高い値を示した。	・ <u>ダム直上流の堆積土砂の影響（ダム下流の濁り）</u> は特にみられなかったと考えられる。

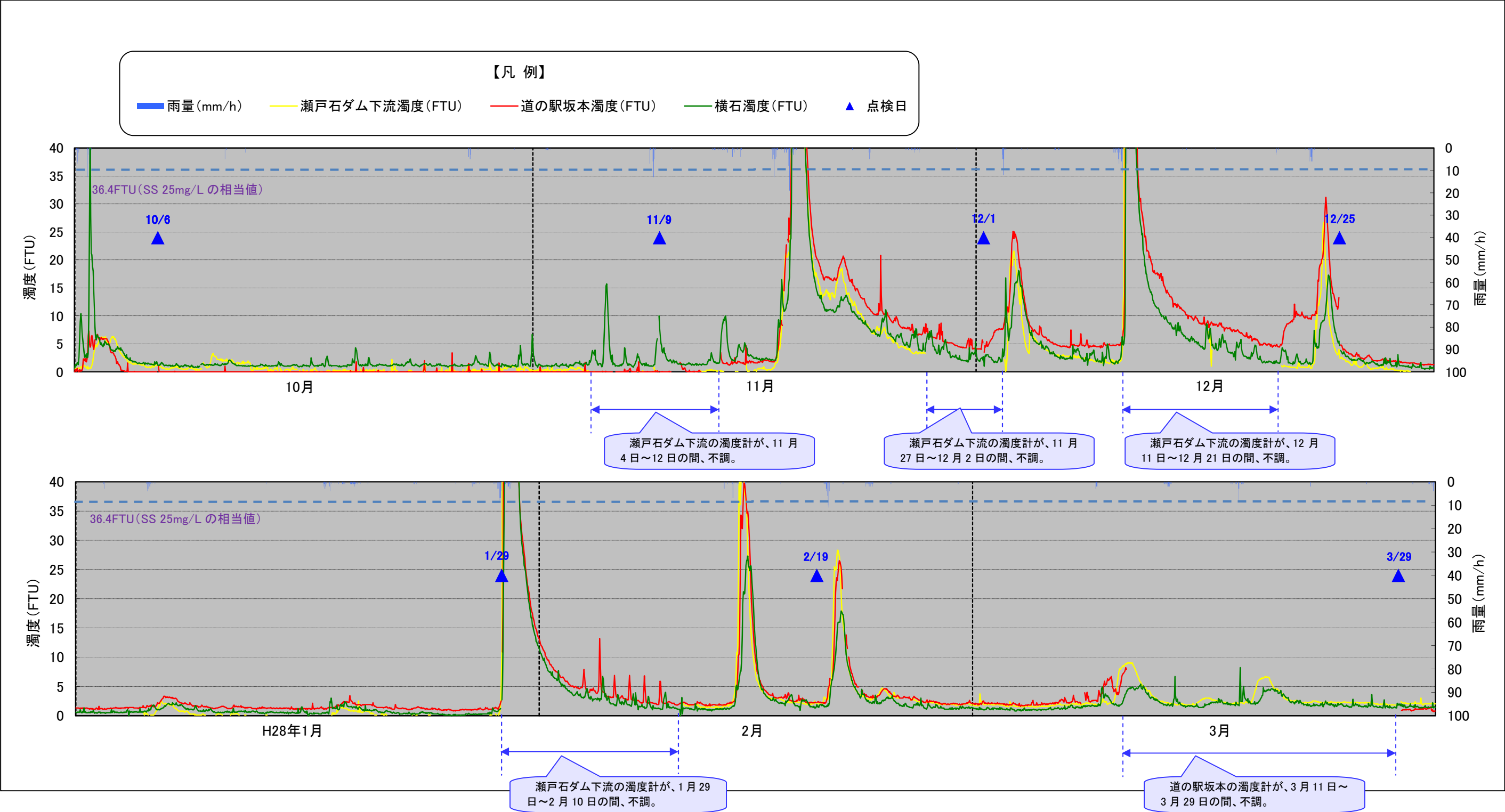


8) 水質（常時観測：平水時）

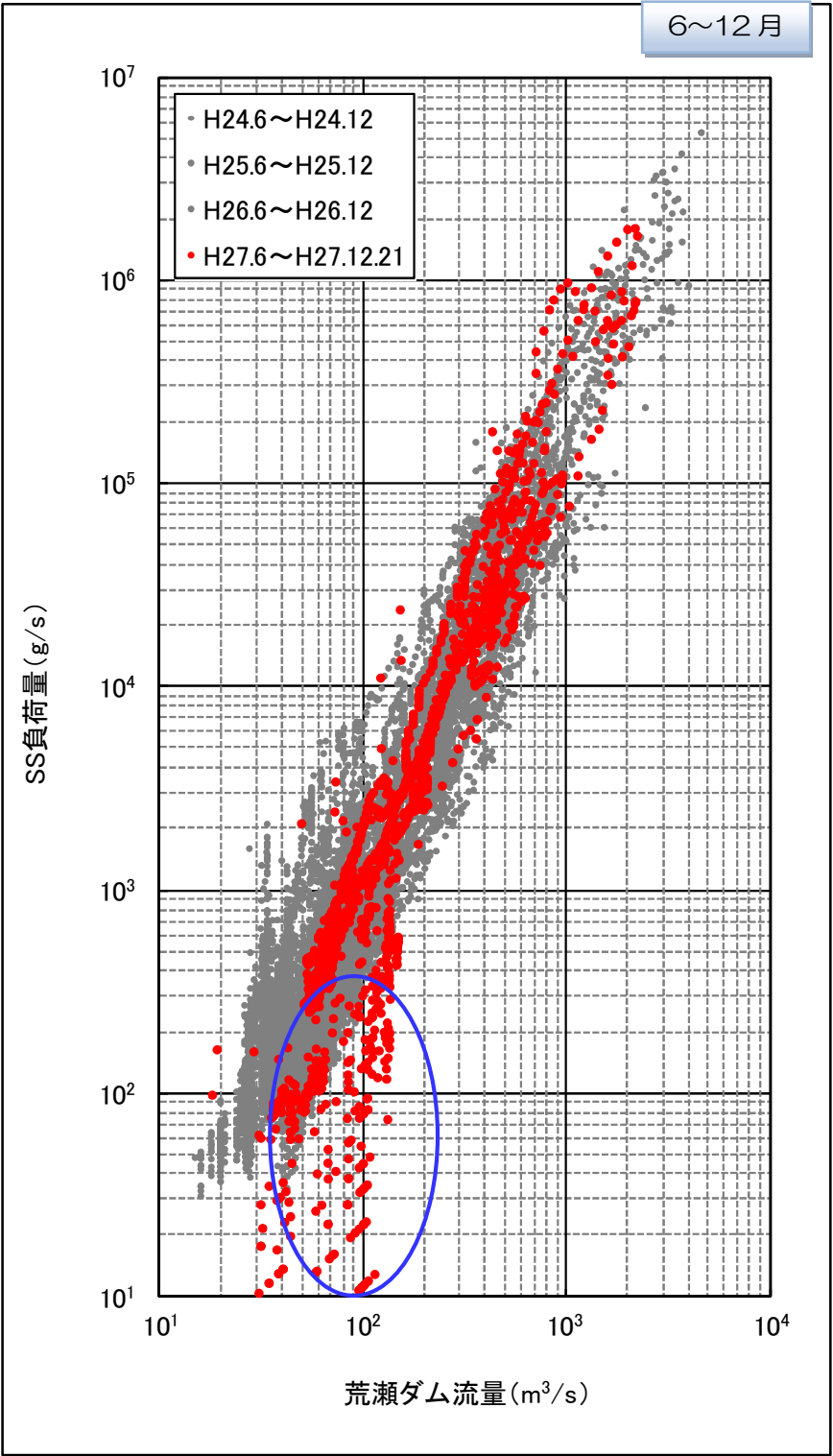
評価項目	視点	平成 27 年度前期(4～9 月)の調査結果概要	評価概要
平成 27 年度の平水時濁度の状況	平水時の濁度の時間変化 (自動観測)	・瀬戸石ダム下流（荒瀬ダムへの流入水）と道の駅坂本（荒瀬ダム直下流）の濁度の関係に着目し整理したが、ほぼ同 じような挙動を示している。	・濁度は出水時に一時的に高くなるが、長期間継続することはなく、 流量の低下とともに平常時の値に戻ることから、ダム下流の環境に 対して大きな影響はなかったと思われる。



評価項目	視点	平成 27 年度後期(10～3 月)の調査結果概要	評価概要
平成 27 年度の平水時濁度の状況	平水時の濁度の時間変化 (自動観測)	・瀬戸石ダム下流（荒瀬ダムへの流入水）と道の駅坂本（荒瀬ダム直下流）の濁度の関係に着目し整理したが、ほぼ同じような挙動を示している。	・濁度は出水時に一時的に高くなるが、長期間継続することなく、流量の低下とともに平常時の値に戻ることから、ダム下流の環境に対して大きな影響はなかったと思われる。



評価項目	視点	平成 27 年度の調査結果概要	評価概要
平成 27 年度の出水時の 負荷量等の状況	流量と濁り（濁度、SS） の相関性	・7～11 月において、従来の範囲よりも 下方に位置するデータ（同じ流量でも SS 負荷量が少ない）が確認できる。	・6～7 月の小中規模出水によって土砂がダム直下流に堆積して砂州を形成し、自動濁度計のあ る右岸に伏流水が湧出したことにより、一時的に SS 負荷量が少なくなった。このため、流 量が低い時は伏流による浄化で濁度が低く、水位が上昇し砂州を越える場合に濁度の上昇が みられた。砂州が撤去された 12 月以降は、このような傾向はみられなくなった。



※道の駅坂本の自動計が、6～8 月の出水によるダム直下流での土砂堆積や秋季の掘削工事により、6 月 15 日～7 月 29 日、8 月 1 日～8 月 25 日、9 月 12 日～11 月 13 日の期間の一部で不良であった。
※青囲みの部分は、伏流することにより浄化され、低い濁度を観測したためである。

